

岡山県版レッドデータブック2020 正誤表（植物編）

頁	種名	修正箇所	誤	正
9		協力者及び協力団体（植物部会）	資源生物科学	資源植物科学
23		「和名」の内容	標準和名を記載	各分類群で使用する体系に基づく名称を記載
30		絶滅危惧種の状況6行目	倉敷自然史	倉敷市立自然史
			資源科学	資源植物科学
33	ミズニラ	特記事項1行目	高宮, 1997	Takamiya <i>et al.</i> 1997
		主要文献1行目	倉田・中池	倉田・中池編
		主要文献2行目	et al.	<i>et al.</i>
36-68		分類名	大葉シダ綱	大葉シダ綱
43	ヒメミズワラビ	特記事項2行目	2変種	2種
	タキミシダ	生育状況5行目	混紡状	棍棒状
50	ヒメハシゴシダ	特記事項（追加）		特記事項 分布市町村が不明である
	ヨコグラヒメワラビ	特記事項	特記事項 分布市町村が不明である	（削除）
54	ミヤコイヌワラビ	学名	<i>Athyrium frangulum</i> Tagawa	<i>Athyrium imbricatum</i> H. Christ
		主要文献	岩槻（1992）, 岩槻（1992）,	岩槻編（1992）,
67	ヤノネシダ	生育状況3行目	地上	地面
69	イブキ	参考文献	片岡ほか（2005）	（削除）
70	オニバス	分類名	被子植物 スイレン科	被子植物 基部被子植物 スイレン科
71	サイコクヒメコウホネ	分類名	被子植物 スイレン科	被子植物 基部被子植物 スイレン科
	キビヒトリシズカ	分類名	被子植物 センリョウ科	被子植物 基部被子植物 センリョウ科
		分布状況	県内では、南部の産地を中心に希に分布する。また、中部や北部にもごくわずかに見られる。	県内では、南部の山地を中心に希に分布する。また、中部や北部にもごくわずかに見られる。
72	マルバウマノスズクサ	分類名	被子植物 ウマノスズクサ科	被子植物 基部被子植物 ウマノスズクサ科
	ウスバサイシン	分類名	被子植物 ウマノスズクサ科	被子植物 基部被子植物 ウマノスズクサ科
73	オオバクロモジ	分類名	被子植物 クスノキ科	被子植物 基部被子植物 クスノキ科
	アオモジ	分類名	被子植物 クスノキ科	被子植物 基部被子植物 クスノキ科
74	ナギヒロハテンナンショウ	主要文献	大橋ほか編（2015）	邑田ほか（2018）, 大橋ほか編（2015）
90	ヒメナベワリ	著者名	（（	（
		著者名	））	）
92	ホソバノアマナ	関係法令の指定状況	自然保護法	自然公園法
97	キエビネ	分布状況	岡山県内では新見市、岡山市でわずかに記録があるのみ。	岡山県内では岡山市、津山市、新見市でわずかに記録があるのみ。
120	ヒメシャガ	主要文献1行目	門田	門田ほか
		主要文献1行目	加藤ほか	加藤・海老原
125	ミクリ	参考文献	片岡ほか（2006）	片岡ほか（2005）
126	ナガエミクリ	参考文献	片岡ほか（2006）	片岡ほか（2005）
225	カラコギカエデ	関係法令	新見市では天然記念物に指定され保護されている	（削除）
270	ツクバキンモンソウ	選定理由	石灰岩地などのやや湿った樹林下に生育する植物であるが、開発や森林伐採により生育地が失われたほか、明るくなって乾燥化するなど生育地が変化したことから、急激に減少している。	もともと生育地、個体数ともに多くないが、歩道整備により小集団が消滅した所もある。地味な植物で目に止まりにくく、貴重種の認識が希薄であることも減少の要因となるようだ。
		存続を脅かす要因	森林伐採, ゴルフ場, 自然遷移	道路工事（林道工事）, 自然遷移, 山地極限
		分布状況	県内：井原市などの岡山県中西部に主に分布する。開発などによって、希となった。県外：本州（関東南部, 東海, 紀伊半島南部）～九州に分布する。	県内：南部・中部の林縁や丘陵地の林内などに生育する。県外：関東から四国の太平洋側にかけて分布する。
		執筆者名	西本 孝, 森定 伸	地職 恵, 森定 伸
		撮影・所蔵者	榎本 敬	狩山 俊悟
323	主な参考文献	34行目	倉田悟・中池敏之編, 2004.～	（削除）
		35行目	倉田悟・中池敏之編, 2004.～	（削除）